

第6章 グループインタビュー調査結果

第6章 グループインタビュー調査

1. 玉名市の子育て支援ボランティアグループ



玉名市の子育て支援グループハーモニーで活動しているボランティアグループ。

自分の子育て体験を踏まえ、幅広い地域活動の中で子育て支援に関わっている。

参加者のプロフィール（本人記入を補足）

番号	年齢	子育ての経験	子育て支援への関わり
1	60歳代後半	男子2人 昭和43年、45年に出生	1990年6月に千葉より引越しヘルスマイトに加入。2002年、健やか親子プランの会議に関わり、そこで知り合った人を介して子育て支援に関わる。立願寺子育て交流会ハーモニーの支援を続ける。
2	30歳代後半	6年生の長男と5年生の長女、1年生の次女の3人を育てている。	子育てサークルを3年間代表として活動させてもらっている。ファミリーサポートやたすけあいの会の研修を受け、活動に活かしている。年2~3回子育てハーモニーとしてネットワークの活動もしている。
3	60歳代前半	男2人育て上げた。それぞれ家庭を持ち、子が1人ずつ有り、2人とも県内に居住。	ボランティア子育てサークルを立ち上げ、現在実施中。老人会に入っていて子育てサークルとの交流をしている。主任児童委員2期目。母子保健推進員。
4	50歳代前半	長男（19歳）と長女（17歳）の2名。	地域における子育てサークルを月1回開催。老人会に参加。中学生の不登校者の支援指導。保護司。母子保健推進員。

（主な意見・アイデア等）

●晩婚化、非婚化に関して

- ・女性もしっかりしているが、男性がそうでない。独身女性は働いているから自分の小遣いもあり、結婚することで自由に使えるお金が減るなどの束縛感がある。一方男性は「責任が負担」と感じており結婚に踏み切れない。
- ・意外に出会いの機会が少ない。また、昔のように結婚を後押しす

る人（見合い等を世話する人）がいない。

- ・民間の結婚相談所は年会費も高い。また、入会しても、すんなりと結婚にはつながらない。
- ・「結婚することが苦勞につながる」や「近所の目を気にしなくてもいい」雰囲気から、『わざわざ結婚しなくても良い』となっている。とくに、母親が子どもを手放したがる。

●「子どもを多く生まない」に関して

- ・一人っ子どうしの結婚だったので、兄弟は多いほうが良いと思う。
- ・ひとり生まれると、女性は「働きたい」、男性は「働いてほしい」となる。理由は金銭面のこと。「遊びたい（自分のしたいこと・思うことをしたい）」との意識がある。
- ・保育料が安いと助かる。パート収入が5万円として、その代わりに保育料が4万円を超えたりする。児童手当や出産給付金はありがたい。
- ・若い時期に結婚した人は経済的に余裕がなく、次の出産に抵抗がある。ある程度歳を経て結婚した人は経済的には余裕があるが、年齢が高い分、次の出産につながりにくい。

●「子育ての楽しさ」に関して

- ・子育ての仕方自体の親の力が弱まっている。
子育て支援センターなどに来ても、母親は携帯で遊んでいる。父親は家でパソコン。子どもとの遊び方を親が知らない。
- ・「自分で子育て」は前提で基本だが、そのことへの気付きや支援は必要。
- ・(若い立場からは) 実際、子育てサークルなどで子どもとの遊び方・接し方が分かるのはありがたい。
- ・保健師さんや母子保健推進員さんの訪問は助かる。

アイデアのキーワード

赤ちゃん・子どもとの、馴染みを広げる

●「子育ての楽しさ」の前提として

- ・そもそも、赤ちゃんや小さい子どもと日頃から馴染んでいることが、「子どもを持つ」という前提になる。
- ・実際に、赤ちゃんを抱っこして、その体のぬくもりや、息遣い、目線の動きなどを体験するとわかる。「わが子を持つ楽しさを知らない」状態。ここを変えていく必要がある。

●「子育ての楽しさ」のために

- ・赤ちゃんや小さい子どもとの馴染みが必要なので、小・中・高校生
のときから「子ども」、「子育て」に馴染んでおくことが大事。

●子ども・子育てへの馴染みのためのアイデア

- ・学校の授業でも「自分が生まれたとき」などの子育てに関わるこ
とに取り組んでいるが、もっと具体的な話のできる人（たとえば
保健師さんなど）が授業に加わると良い。
- ・とくに、「赤ちゃん抱っこ体験」や、地域の子育て支援のガイドブ
ックのことなどを伝える。玉名市で出されている「子育ての輪」
のような冊子を高校生にも配る。そのことで、子育てを身近に感
じられるようになっていく。

学校の授業以外
で、子育て教育の
時間を確保

●子ども・子育てへの馴染みの授業時間確保のアイデア

- ・学校も忙しく、「子育て」に関する授業時間が取れない。しかし、
親子交流の日など PTA が企画して授業内容を組むことのできる
時間がある。それを活用する。学校評議員や放課後子ども教室な
ど地域の人が学校に関わる機会も増えてきている。それを活用。
- ・社会福祉協議会のワークキャンプや、ボランティア協力校の活動
としても、「子育て体験」のカリキュラムが考えられる。

●小・中・高校での、それぞれのカリキュラム組み立て

- ・小・中・高校のそれぞれで、子育てに関わる授業を組み込む。小学
2年生ではこんなこと、中学2年生では、高校2年生では、とい
った内容を考える。
- ・子どもの成長に応じた内容を考え、繰り返し子育てのことを伝え
る。現実感（リアリティ）のある学校教育として子育てのことに
取り組む必要がある。

成長に応じた赤
ちゃん・子ども
子育てへの馴染
みのカリキュラ
ムの組み立て

●経済的負担についての現状

- ・ファミリーサポートセンターなどもパート代に比べると料金が高
い。学童の利用料も兄弟で通わせれば負担との声を聞く。
- ・一方で、時間に余裕のある高齢者は多くなっている。そのような
人材を活かすことはできないか。ワークシェアリングなどのこと
もある。時間の余裕をうまく活かさないか。最近の状況を逆に子
育て支援に活かしていく。

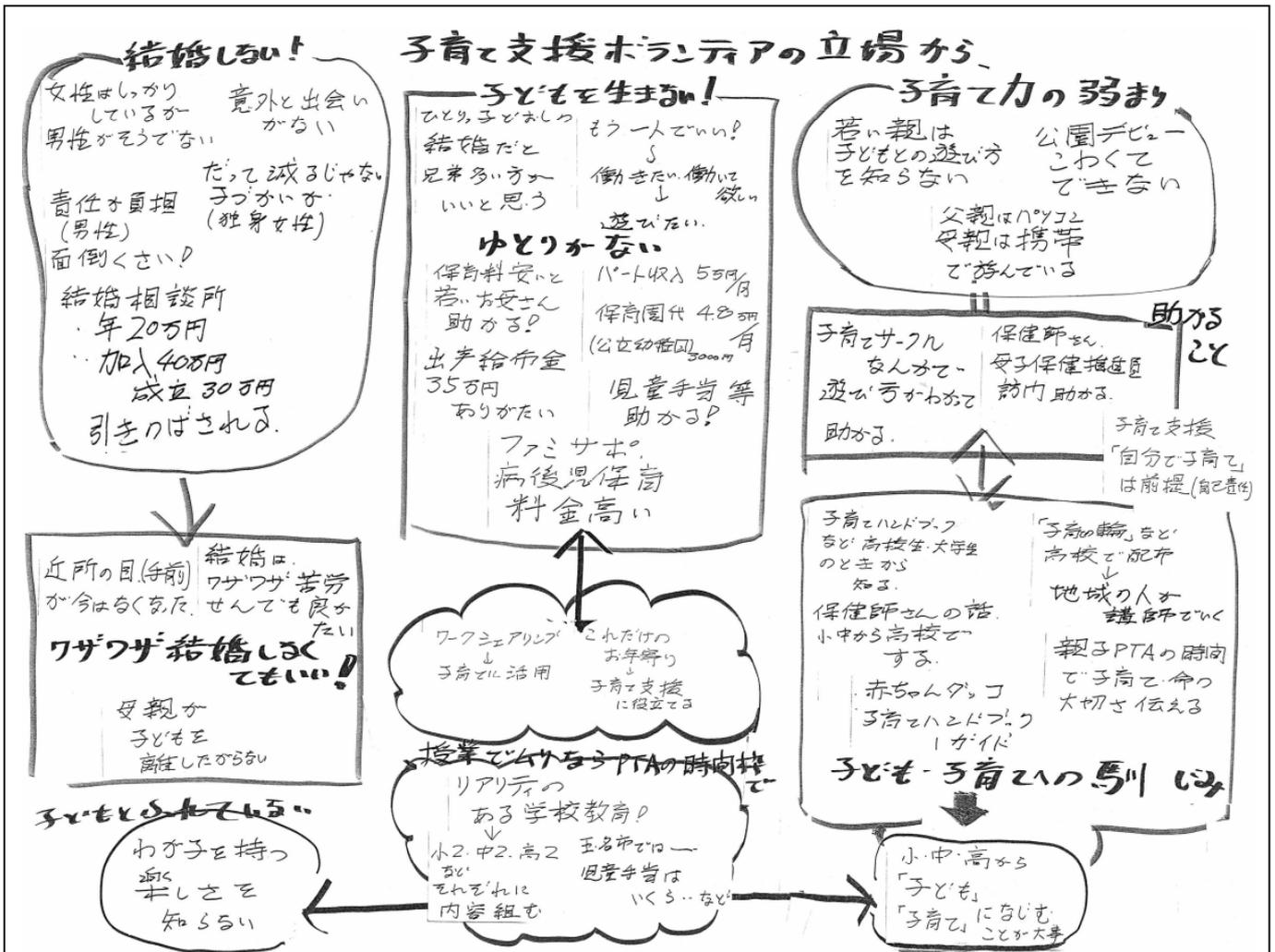
●現在の取り組みから

- ・地域、高齢者と子どもとの交流活動を行っている。このような活動の中で、『ご近所での、ちょっとした頼みごと』として、子どもの預かりなどができるといい。近所だから子どもは安心できるし、高齢者は子どもと接することで元気になる。代わりに、高齢者が困っているごみの分別やごみ出しを若い人が手伝う。身近な支え合いの関係を作っていく。

子育てをテーマとしての、高齢者・親世代・子どものおたがいさまの関係作り

●経済的負担の解消についてのアイデア

- ・お年寄り、子ども、親、相互の顔が分かると子どもを預けるのが頼みやすくなる。実際に頼むには「一歩ためらい」があるが、『お試し預かり』などのきっかけを用意し、子育てに地域の高齢者が活躍できるようになればいい。
- ・一時預かりなどの経済的負担が軽くなるだけでなく、心理的な負担も軽くなるし、子どもの健全な育ちにも好都合。



2. 宇土市の子育て当事者・子育て支援関係者



宇土市の子育て支援センター等を利用している子育て中の当事者、働いている未婚者、及び子育てを終え、現在子育て支援に関わる活動を行っている人達など、幅広い年齢層からの意見を伺うことができた。

参加者のプロフィール（本人記入を補足）

番号	年齢	子育ての経験	子育て支援への関わり
1	50歳代前半	30才長男を頭に二男一女	自分なりに楽しく子育てやってきたかなと思う。長男の嫁として色々あった（姑たちとの関係）。夫もよく手伝ってくれ、助かっている。読み聞かせブックスタート。小袖お話会。主任児童委員（我が子で登校拒否など体験、）福祉塾の一員。
2	70歳代後半	男1人女1人を育て上げ、今は娘、孫、ひ孫と暮らしている。	孫と一緒に子育て支援センター等に出かけている。
3	40歳代前半	子ども2人（女）小6、小4	
4	30歳代前半	男1人（4才）女（1才）、現在進行中	支援してもらっている（保育園など）。
5	50歳代前半	子ども2人（娘、息子）	図書館のお手伝い。ブックスタートで読み聞かせ。子ども劇場という団体に体験活動を市内の子ども達に届けている。福祉塾でこれから手伝いできればと思っている。
6	20歳代後半	なし	前の職場では保育園・小学校・中学校・高校・大学に行っていた。最近は全くない。以前はボランティア団体との関わりがあった。
7	20歳代後半	女の子2児の子育て中。	毎日どこかの子育て支援センター等に出かけている。
8	30歳代後半	男3人（6才、2才、9ヶ月）	保育園の開放。イベントへの参加。
9	50歳代前半	現在大学2年生（男）と大学4年生（女）2人。母乳で育てました。姑、おば、曾祖母と3人の助っ人がいたので保育園の育児学級や遠足などは全ておまかせで、仕事だけしていたなあとと思う。	保健師という仕事柄、関わりは多かった。

(主な意見・アイデア等)

●晩婚化、非婚化に関して

- ・女性は仕事にやりがいを感じており、やめたくないと思っている。結婚・出産が仕事をやめることにつながっている。
- ・男性は収入があまりないことなどから結婚に自信を持ってない状況。

●結婚しなくても良い雰囲気がある

- ・「結婚すると大変だから、そんなに急がなくても良い」などと結婚を勧めない雰囲気がある。とくに、母親が娘を手放さない。いつまでも一緒に買い物、おしゃべりをしていきたいとの感じ。

●共働きの場合の子育ての支援が必要

- ・共働きが当たり前の中、共働きでも育児ができる体制が必要。テレビのサザエさんのようにマスオさん型（女性の実家に同居や近くに住む）で、子どもの面倒をお願いするようなことでないと出産はできない。

●多くの子どもを産めない環境

- ・保育料が高い。保育所の空きがない。仕事が決まらなると保育園に入所できない。求職先では、子どもはちゃんと預けられますかと聞かれる。これでは多くの子どもを産めない。

●多くの子どもを産まない雰囲気がある

- ・妊娠アレルギーで大変だった。
- ・経済的な負担や育児の大変さ、子どもの育つ社会環境の問題など、子育てにマイナスイメージが広がっており、多く産もうという雰囲気にならない。

●楽しく子育てはおしゃべりができること

- ・同じ悩みを持つお母さんたちとの、なんでもないおしゃべりが最大のポイント。子どもが不登校になったときなど大変助かった。就学前や小学校だけなどでなく、思春期の子育てにも悩みは多い。
- ・ちょっと先輩ママの助言や体験のことがありがたい。

ちょっとした手
助けをしてもら
いやすい(しやす
い) 雰囲気

●楽しく子育てに「さりげない手助け」が大事

- ・赤ちゃんを抱っこして、スーパーのレジのところで財布を取り出すのに苦労していたときなど、「私が抱っこしてくね」など、見知らぬ人のさりげない手助けがとてもうれしい。

●「さりげない手助け」をしてもらうポイント

- ・マタニティバッジなどがもっと知られるといい。妊娠初期はつらいのに周りの人は妊娠と分からない。
- ・さりげない手助けをしてもらうには、本人が声を掛けてもらいやすい雰囲気であることが大事。セレブではだめで、いかにも「子育てが大変なんです」といった、ちょっとくたびれた雰囲気がポイント。

●子育て情報が伝わっていない

- ・子育てに関する経済的な負担は大きい、その緩和に役立つような情報が伝わっていない。チャイルドシートの貸し出しのことなど知らない。

子育て情報伝達
の、地域での細か
い取り組み

●情報が伝わるためには

- ・情報を提供する側が生の声のニーズに対応していること。生の声(悩みや要望)に即していないと情報にならない。
- ・今、一番の情報源は携帯。県警がしている不審者情報配信メールなどのように、その日の行事や子育て情報が携帯に配信されれば分かりやすい。

●携帯メール情報発信ができる地域の施設

- ・私の職場(社会福祉法人)には情報発信の機器がある。サーバーを備えれば携帯メール発信ができる。仕組みと人手さえあればお金をかけずに取り組める。

●経済的な子育て支援としてのエンゼルマーケット

- ・子育ての経済的な負担が一番の課題。少しでも解消するため、子育て関連用品の貸し出しやフリーマーケットがあるといい。
- ・チャイルドシートや歩行器、ベビーベッド、ベビーバスなどを安く買えたり借りられたりできるといい。孫のために買ってくれる品物も親にとっては高い。しかし、使わない人もいる。

地域人材による
エンゼルマーケット
具体化の可能性

●エンゼルマーケット具体化の可能性

- ・宇土では、平成 19 年度から子育て支援をテーマに地域福祉塾に取り組んでいる。子育て支援の取り組みをいろいろ考えており、エンゼルマーケットはいいアイデア。場所も心当たりがあり、具体的に考えてみるができる。

●エンゼルマーケットからの広がりアイデア

- ・子育て支援センターに足を運びにくい人も、エンゼルマーケットならば足を運ぶ。なんといってもタダや安いは魅力。
- ・そして、そこに足を運んだ人に必要な情報を伝えたり、専門機関につないだりする。
- ・エンゼルマーケットは、新米ママなど、孤立しがちな人が一歩踏み出すきっかけづくりにもなる。

